

第3回自然と親しむ子ども山登り教室始まる

今年も、「自然と親しむ子ども山登り教室」が始まりました。今年も、5人の定員に対し、それ以上の申し込みがありました。説明会の後、5人の子どもたちは、第1回目の景信山を元気に楽しみました。定員に入れなかった子どもたちも、未成年会員となって、別働隊で同行しました。5人の子どもたちは、小4の男子1名、小5の男子1名、小6の女子1名、中1の男子2名です。第2回目の伊豆ヶ岳は、残念ながら悪天の予報で中止としましたが、最後の仙丈岳に向けて、少しずつ標高の高い山を経験していきます。みんなで、見守ってあげましょう！

説明会(4月5日)報告

参加者 子どもたち5名
親御さん他会員外9名
スタッフ6名、会員2名



会議室で説明会を実施

「第3回自然と親しむ子ども山登り教室」の説明会を実施した。

内容は、登山教室の進め方、運営体制、登山に伴う危険と回避方法、山道の歩き方、登山装備、登山の食料、パッキングの仕方、読図の基礎、気象の基礎、登山日程の説明を行った。

今回の登山教室への参加者は、中学1年生の男子2名、小学5年生の男子1名、小学6年生の女子1名、小学4年生の男子1名の参加となる予定。

他にも、参加したい中学生がいたが、未成年会員になって他の登山計画も含め、いろいろな山に参加していただく予定。これからの登山を安全に、そして楽しくいろんなことを感じてもらいたいと思った。

景信山(4月19日)報告

参加者 子ども4名
スタッフ8名

別働隊 スタッフ(5名)
会員(障害者3名、健常者5名)

会員外(3名、親御さん2名含む)

みると、香水のようなよい匂いがする。前の人
が匂いを全部吸い取ってしまったのか、後の人
たちは匂わなかったという。不思議だ。

今日は、第3回自然と親しむ子ども山登り教
室の最初の山、景信山だ。帰りに日影からバス
に乗れるかどうかという心配があり、日影から
先に城山に登ろうかと思ったが、景信山からの
下りの方が急だという意見もあったため、当初
の予定どおり、小仏バス停から登ることにする。

今回は、本隊12人の他に、別動隊が16人
だったため、別動隊をさらに2班に分けて、3
班で、行くことにする。まず自己紹介をした後、
ラジオ体操を行ってから出発する。

最初は舗装道路だが、突然、野鳥のイカルが
間近に一瞬だけだが現れてくれた。木々の花や
足下のイチリンソウ、ニリンソウなどを楽しみ
ながら歩く。今回は、別動隊で3歳のSちゃん
も参加しているので、後をふり返るが、あまり
遅れていないようだ。

道路が大きく曲がったところから、登山道に
入る。まずは急な階段上りから始まる。この下
には、中央高速の小仏トンネルが走っている。
しばらく登って、尾根上に出たところでひと休
み。桜が咲き、足下にはイカリソウが咲いてい
る。ここからは、なだらかな道を徐々に高度を
稼ぎながら登る。タチツボスミレが無数に咲き、
夏鳥のヤブサメの声も聞こえる。

空が近づいてくると、景信山の東尾根に出る。
ここは、新緑がひときわ美しい。やわらかな緑
と共に、ナガバノスミレサイシンが咲き、カン
アオイの地味な花も見られた。ここからもう少
し急な登りを頑張ると、足下にニオイタチツボ
スミレを見つけた。鼻を近づけて匂いをかいで



よい香りのニオイタチツボスミレ

ここから少して、山頂に通じる階段に飛び出
す。3歳のSちゃんも一人で登ってくる。

桜が咲き乱れ、陽光に満ちた山頂に到着する
と、さすがに大勢の人たちがいた。私たちは、
桜の木の下でお昼にする。関東平野が一望に望
まれ、最高の展望を楽しみながら食べる昼食は
格別だ。



景信山山頂にて

みんなで写真を撮ってから城山に向けて出
発する。男の子たちは力が余っている。下
りも早足でスイスイ下っている。Sちゃんは、
中1のお兄ちゃんに手を引かれて歩く。今回が
初登山となる小6のMちゃんは、おばとなるT
さんと一緒に、山の自然をしみじみと感じなが
ら歩いている。昨年のリベンジで参加した小5
のK君は、中1の男の子二人に圧倒されなが
らも、お兄さんたちといろんな話をしながら楽し
く歩いている。

中1の二人はとにかく元気いっぱい、城山

もスイスイ登っていく。Sさんから一緒に歩いてもらい、城山の山頂で、後続の人たちを待っていた。城山の山頂は、いろんな樹木が植えられて、庭園のようだ。花は美しいが、ちょっと手を入れすぎではないかと思った。



ここから、日影までの下りは、かなり長い。先頭の子どもたちは、林道を真っ直ぐに行ってしまったため、呼び止めて、左側の山道に入ってもらおう。別動隊にいた昨年、子ども山登り教室を卒業したJちゃんは、本隊に加わって、水を得た魚のように、みんなと話で盛り上がっている。

左下に高速道路を見ながらぐんぐん下り、右

手の斜面に入っていく。左手にも道があるそうだが、気づかなかった。少し外傾した登山道を慎重に下り、日影沢に下り立つ。子どもたちは、河原で遊びたいという。その間に、Aさんからタカオスミレを探していただき、見に行く。花は終わりかけていたが、特徴ある葉で確認できた。

臨時バスを出してもらえないか、電話番号を控えてきたSさんにバス会社に電話していただくが、3台のバスを全て出して、運行しているので、乗れるはずだということだった。日影のバス停で少しバスを待ち、最初に来たバスに全員乗り込んで、高尾駅に向かった。

ぽかぽか陽気のすばらしい天気の中で、みんなが無事に下りてくることができました。次の伊豆ヶ岳も、みんなで楽しく安全に登りましょう。

コースタイム

小仏(10:55) ... 景信山(12:20-13:20) ... 小仏峠(13:45-13:55) ... 城山(14:25-14:40) ... 林道(16:05-16:25)...日影(16:30)

自然と親しむ子ども山登り教室感想文(第1回景信山) 提出順

今日、景信山に登った感想は、まず!!!「植物」がめずらしい草花がたくさんあって、感動しました。特に、香りのある花は、やさしい香りだったので、とても印象に残りました。

視かく障害のAさんとは、前よりも、もっと仲良くなれたのでうれしかったです。そして、いつもAさんの事を、「すごいな」と思っています。なぜかという、目がみえないのに、私たちと同じ山に登っているからです。しかし、みんなより早く私は登れませんでした。けれどBさんに、「楽しければそれで良いんだよ」と言ってもらえてすごうれしかったです。

なので、今回はとても楽しかったです。もっともっと山登りが好きになりました。

山で食べるご飯はとってもおいしいこと、

山で聞く鳥の声はとってもきもちがいいこと、

山で見る「みどり」はとってもきれいなこと。

山はなんでも教えてくれます。

ぜったいに、また行きたいです。

M.Y.

今回登った景信山は、最初のうちはちょっときついなぁと思っていたけれども、スタッフの人たちや、他の友だちとの会話が、とても楽しかったので、あまりつかれを感じませんでした。

話の内容は、中学校の勉強や部活動のことがほとんどでした。でもまだ知らないことがたくさんありました。

Aさんに、森のおくの方で鳴いている鳥の声をこれはメジロの声だよと教えて、声だけでわかるのが、すごいなぁと思いました。今度の山には、ポケット図かんを持って行って、自分で調べてみたいと思いました。

ぼくは、山には家族でしか行ったことがないので、山仲間アルプで、仲間といっしょに行くのもいいなぁと思いました。 K.K.

ぼくてきにはあまりつらくなかったけど山登りの後半になってからだんだんつかれてきました。集合時間も京王新宿駅に9：10分と朝早く起きなくてよかったのでうれしかったです。ぼくと鬼原溪君は二人でずっと前のほうにいたのであまりスタッフの方たちとはあまり会話をしていませんが、初めて視覚障害者の方が山を登っているのを見て目がみえないのにすごいなーと思いました。

どんどん山を登っていくにつれて鳥の鳴き声やきれいな木が多くなっていきました。山を登っている間にAさんからいろいろな豆知識を教えてもらいました。この花はこうゆう名前だよとか、この草はこうゆう名前だよと名前の由来はこうだよとか、この鳥の鳴き声はこうゆう名前だよ、と聞いたら何でも答えてくれました。

ぼくは山を登っていてとても楽しかったので、次はもっと時間によゆうをもって行動したいと思います。 K.T.

南高尾山稜感想文

(K.I.君は、景信山に参加できなかったため南高尾山稜に参加してもらいました)

はじめは山登りに行く気はなくてくつやリュックを買ってもいまいちでした。

でも、山の入口につくとわくわくしてきました。登り坂は大変だったけどけしきがきれいでした。それで写真をたくさんとりました。

さいごはリュックの重さでつかれて荷物をこうかんしてたすかりました。

帰りにはお土産を買いました。たのしかったのでまた行ってみたいです。 K.I.

蝶ヶ岳の感想文

(昨年怪我で蝶ヶ岳に行けなかった K 君から感想文が届きました)

ふもとの道でころんで、次の日に東京に帰らないといけないことになってしまって、すごく悲しかったです。でも、あのまま蝶ヶ岳の頂上に向かっていたら、つかれて体がもたなくて、もっと大変なことになっていたかもしれません。しかも、帰ると中にきれいな山の景色を見たりして、むしろ帰れてよかったと思います。あと、ぼくのためにわざわざ一緒に帰ってくれた、TSさんとTKさんには、本当に感謝しています。ありがとうございました。今年の第3回山登り教室では、とくに最後の2回に八ヶ岳と南アルプスを目指すと思ったので、ぜったい5回とも、山の頂に立って、そして無事で帰ってくることを、今年の目標にします。

K.K.

K君のお母さんからの感想

ハイキング程度から、難度の高い登山まで、子どもでも順にレベルを上げていけるよう、よく考えられたプログラムでした。

スタッフの方々には、大変よくしていただいて可愛がっていただきました。また、小学生コンビのじゅん子ちゃんにもお世話になりました。5月、6月と回を重ねる毎に、山の魅力に引かれるようになり、自信もつけていったようです。上高地での“骨折”は、本人にとって辛い試練でしたが、“山の怖さ”や“自然への謙虚な気持ち”を知るよいチャンスであったと思います。

これから先、山により親しむためにも、この経験がプラスになると思います。また事故に対して、Aさん方皆さんが、最善の対応をして下さったことを、本人はこれから先、ずっと覚えていることでしょう。私ども親子共々、心より感謝申し上げます。

この1年をふり返って、本当に大きなチャレンジの機会をいただいたと思います。子どもの成長にとって、大きな素晴らしいチャレンジの機会を与えてくださったAさん方皆様に、重ねて御礼申し上げます。

2009年度も、新しい出会いとチャレンジを与えてやって下さい。よろしく願います。

山行報告

弓立山(3月8日)

参加者 会員(障害者9名、健常者18名)

関東の駅百選に選ばれた明覚駅に集合し、総勢27人で歩き始める。低い雲がたれ込めてい

るが、雨の心配は、しばらくはなさそうだ。

長い車道を歩き、登山道への入口が分かりにくかったが、地元の方に教えていただいた。その方は、今日教えるのが3度目とのこと。みんな分かりにくくて、迷うのだろう。

登山道に入ると、いきなりの急登。しかも、岩の部分や落ち葉の多い部分もあって、少し滑りやすい。それでも、順調に登り切り、平坦になったところで、休憩とする。風もなく、温かく感じる。ヤッケなども必要なく、下着と上着の2枚だけで大丈夫だ。

途中、何度か急登を乗り越え、男鹿岩に到着する。ここからは、麓の越生の町が見える。男鹿岩にはクライミングの用のボルトが打ってあった。高さ5 mから6 m程の岩だが、クライミングをする側はややオーバーハング気味だ。



弓立山山頂にて

山頂には、ここから一登りで着いた。山頂からも越生の町がよく見えたが、少し先のパラグライダーの発進地がよく見えるところで、昼食にする。色とりどりのパラグライダーが風に乗って飛び出していくのがよく見えた。南東側には、関八州見晴台など奥武蔵の山並みが見えている。昼食後、山頂で記念写真を撮り、パラグライダーの発着場に行ったら、上がってみても

谷川岳(3月21日~22日)リーダー養成コース

参加者 会員(障害者1名、健常者4名)

3月21日

良いということなので、みんなで上がってみる。風を捉える練習をしている人がいたが、長居はせず下山にかかった。

林道から車道に出て下る。昭文社の地図にあったいこいの里に下る道が分からなかったため、そのまま車道を下り弓立山入口のバス停に出た。ここから、八幡山神社を經由して、梅林に続く車道に出る。



パラグライダーの発着場

車道の両脇には、梅がそこかしこに咲いている。梅林に入らなくても、十分に梅の花は楽しめるという声も上がったが、梅林に入って30分ほど休憩する。梅林の中は、多くの梅が咲いていたが、売店が非常に多く、花を楽しむという雰囲気ではなかった。ただ、空には青空が広がってきて、気持ちは晴れ晴れとしてきた。

梅林を出て越生の駅に向かうが、越生行きバスがすぐに出るということで、バスに乗ることにする。予定よりも早い電車に乗車して、池袋に向かった。

コースタイム

明覚駅(9:50)... 桃木バス停(10:25)... 弓立山(11:40-12:30)... 弓立山入口バス停(13:10)... 越生梅林(14:10-14:45)... 越生梅林バス停(14:50)

今日は素晴らしい天気だ。風もなく、気温も非常に高い。日焼け対策をして、天神平を後に登りはじめる。すぐに暑いという声が出てくるが、急な斜面で休憩するわけにはいかず、頑張

ってもらおう。

尾根に出たところで、休憩タイムとなる。すぐ近くで雪洞を掘るため、泊まる場所まではノンストップでいく予定だったが、みんなすっか



りのんびりムードだ。今日は、リーダー養成なので、気合いを入れて我慢して欲しかったのだが。

しかし、谷川岳がとてもよく見えるし、上州武尊山から尾瀬の笠ヶ岳、至仏山、そして平ガ岳へと続く山々が楽しませてくれる。朝日岳、笠ヶ岳、白毛門の谷川連峰の山も間近に見える。天気が良く、すばらしい展望だ。

休憩したところから斜面をトラバースして、コルになったところで、テントを張り、雪洞を掘ることにする。雪洞掘りには2時間ほどかかっただろうか？ 何とか2人用のものができるあがった。テント場の近くには、トイレも作った。

テントの脇にシートを広げ、その上で夕食を作る。雪洞掘りに時間がかかったことと、雪上訓練をするのに良い場所がなかったため、翌朝、滑落停止の方法を教えるだけとした。

ここは、天神平にアンテナがあるからだろうか、携帯電話が通じ、メールリストで今回来なかった人たちとメール交換ができ、盛り上がった。夜は、すばらしい星空が広がっていた。

3月22日

雪洞に泊まったHさんと私は、暖かく快適に眠れたが、テント組は、寒くてよく眠れなかつ

たそうだ。

今日は、昨日とうって変わって、どんよりした雲におおわれている。天気予報が当たったようだ。そうすると、午後には雨が雪が降り出すだろう。そのころにはガスにおおわれる可能性が高いため、できるだけ早く出発したかった。しかし、朝食や水づくりに時間がかかり、4時に起床したものの、出発は6時45分となってしまった。

それでも、軽い荷物となったこともあり、快適に歩く。一箇所だけ悪いところがあるので、そこはロープで確保して通過した。

そこを過ぎると、すぐに熊穴沢避難小屋に着いた。小屋は見えないが、目盛りのついた鉄の棒がたっていて、積雪は3m40cmくらいだった。天神平スキー場より1mほど深い。

避難小屋から本格的な登りが始まる。雪は固く、全く潜らないが、転んでしまうと、滑り落ちてしまう危険があるため、私はKさんの後について、しっかりサポートしながら登る。元気なMさんのサポートは、Hさんにおまかせした。

山頂が近づくにつれ、風が強くなると共に、雪が降り、頬を打つようになってきた。帰りにガスに巻かれてしまうと、大変なため、山頂に着いたらすぐに下山しようと決めていた。

急な登りが終わり、頂上広場に飛び出すと、肩の小屋があった。時間との勝負のため、そこには寄らず、山頂まで行く。トマノ耳の山頂標識を中心に記念写真を撮る。私は、全盲の男性とは雪の谷川岳を登った経験があるが、全盲の女性は初めてだ。視覚障害者の女性で雪の谷川岳山頂に立った人は、非常に少ないのではないだろうか？ Mさんのチャレンジ精神に勇気をもらったように思います。

とにかくゆっくりできないので、すぐに下山の準備をする。転んで滑り落ちたら大変なため、ロープで全員つながりあう。下りは、さすがに早い。45分くらいで熊穴沢避難小屋に着いた。途中で、山スキーの4人パーティーに会ったが、

強風のため、避難小屋の少し上から滑り降りるという。今日は、こんな天気にもかかわらず、10数人に行き交った。



順調に下ってテント場に到着し撤収する。出発する頃は、すでにガスに巻かれて、見晴が悪くなっていた。このような状態なので、来たトラバース道を通らずに、尾根通しに行き、スキー場に行った方がよいと思い、重いザックを背負って登り返した。

天神山に続く広い尾根に上がると、ほとんどホワイトアウトになってきた。スキー場のロー

扇山(4月16日)

参加者 会員(障害者4名、健常者9名)

昨年雨で中止となった扇山なので、天気心配だったが、週間予報の雨は当たらず、素晴らしい天気に恵まれた。

鳥沢駅に全員集合し、歩き始める。駅周辺には、ツバメが飛び交っていた。まだ、渡ってきたばかりなのではないだろうか？ しばらく舗装道路が続く。正面にはこれから登る扇山が聳え、ふり返ると来月登る予定の倉岳山が佇んでいた。

春爛漫の陽気の中、芽吹きの木々を楽しみながら登ると、足下にはタチツボスミレやイチリンソウが咲くようになってきた。イカリソウや

プが張ってあるのと、足跡やスキーの跡がよく見えるので、間違わなかったが、空も地面も白一色なので、気持ちをぴーんと張りつめて歩く。リフトが見えたところで、リフトに添って下りはじめる。視界があれば、シリセードで気持ちよく滑れそうだが、足下もはっきりしない状態のため、アイゼンやキックステップで、しっかりと下る。平になったところで、ようやくゴンドラの乗り場に着いた。

すばらしい展望からホワイトアウトまで、いろいろ経験ができた山行だったと思います。最後はユテルメ谷川で汗を流して帰りました。

コースタイム

3/21 天神平(12:45)...テント場(13:35)

3/22 テント場(6:45)...熊穴沢避難小屋(7:25)
...山頂(9:20-9:30)... 熊穴沢避難小屋
(10:15)...テント場(11:00-11:50)...天神
平(12:45)

ムラサキケマンなども咲いている。

フデリンドウやクサボケの花を楽しみながら歩いていると、近道だろうと思って入った道が間違っていて、少し遠回りになってしまったが、梨の木平に10時15分に到着した。



ここからが本格的な登山道になる。高度をぐんぐん稼ぎながら登っていく。ツツドリ「ポポン、ポポン」という竹筒を叩いたような声が

聞こえ、ヤマガラやヒガラなどの留鳥たちの歌声に混じって、オオルリやヤブサメの声も聞こえてきた。足下には、アケボノスミレやマルバスマシレ、エイザンスミレ、アカネスミレ、タチツボスミレ、ヒトリシズカ、チゴユリなどが次々に現れ、野鳥たちとスプリングエフェメラルたちの競演が続く。

水場でおいしい水を飲み、さらに登る。空が近づいてきたが、疲れたという声が出てきたので、小休止をして、さらに山頂を目指す。尾根に出て、緩やかな山稜を歩くと、多くの人が休憩している山頂に飛び出した。春がすみのため、富士山は見えないが、ここは秀麗富岳十二景の6番目の山だ。空気が澄んでいたら、すばらしい富士山を見ることができたのだろう。山頂は桜が咲き、キアゲハが舞っていた。



気持ちのよい稜線を歩く

山頂でゆっくり休んだ後、君恋温泉に向けて下る。昭文社の地図では「急坂」と書いてあるが、それほどでもなかった。この稜線では、久しぶりにヒゴスミレを見ることができた。尾根から沢の方に下っていく。マムシグサがきれいな緑色の鎌首を立てていた。

南高尾山稜(4月26日)

参加者 会員(障害者7名、健常者19名)
会員外(障害者1名、健常者3名)

大滝不動を過ぎ、沢筋を少し行ったところで、橋のような栈道をFさんが踏み外してしまう。ハプニングがあったが、怪我などはなく、そのまま下る。そこから少し歩いていたら、今度はYさんがいないという。大滝不動の手前で、曲がらなければならぬところを真っ直ぐ行ったため、他の人もトイレかと思っていたが、間違っていてしまったようだ。携帯電話が入るので、連絡を取り合い、君恋温泉で合流する。

温泉に入り、今日の汗を流す。ここから1時間かけて車道を歩くより、タクシーで帰りたいという声が強くなり、入浴後はタクシーで鳥沢駅に向かった。



扇山山頂にて

今回は、少しハプニングがあったが、注意すべきところを再認識して、今後に繋げていきたいと思った。

コースタイム

鳥沢駅(8:55)...梨の木平(10:15-10:20)...水場(11:00-11:10)...扇山(11:55-12:40)...君恋温泉(14:20)

今日は、小2から小6まで、6人の子どもたちが参加し、総勢30人となった。大人数とな

ったため、先頭の私と後方のKさん、中間のTさんで、無線で連絡を取り合うことで、無線機を準備してきた。

今回は、相模湖駅集合の人が多く、新宿集合組は、高尾駅で京王線からJRに乗り換えるのだが、乗り換え時間を6分しか取っていなかったため、切符購入が間に合わず、JRの電車に乗り遅れてしまった。

次の電車だと、相模湖発のバスに乗れないため、相模湖に集合しているTKさんと携帯電話で連絡を取り、バスで大垂水峠に向かってもらうことにする。ところが、遅れた我々が相模湖駅に着くと、タクシーが1台もない。電話で呼ぼうとしたが、今の時間は1台しかなく、3往復が必要とのこと。そのため、あきらめて、もう一度、高尾駅に戻って、高尾駅からタクシーで大垂水峠に向かった。このタクシーも大勢で乗ると、相模湖まで行ってバスで行くのとあまり変わらない。これからは、タクシー利用も考えたいと思った。



先頭を歩く子どもたち

山に入るまでの前置きが長くなってしまったが、先発組はすでに登っているとのことだったので、どこかで待ってもらおうよう、お願いする。こちらは、バス停から順調に登りはじめる。大洞山の手前で、先発組がコンピラ山で待っていてくれるとの連絡を受け、強風の尾根をぐいぐい登る。木々の間からは、真っ白な富士山がみえていた。

コンピラ山の手前で、迎えに来てくださったAさんと会った。子どもたちに、コンピラ山に

待っている人たちに知らせるため「ヤッホー」と大きな声で叫んでもらうと、間近なところから「ヤッホー」が返ってきた。

コンピラ山で合流し、自己紹介をして、歩き始める。しばらく行くと、中沢山への巻き道にはいる。昨年の2月に休憩し、道を間違ったところに出た。間違った理由がこれではっきり分かり、納得した。

お昼にはまだ早いため、もう少し先に進むことにする。展望の良いところに出ると、津久井湖上流の緩やかな流れの川と、その向こうに頭を雲に入れた富士山が見えた。そこからさらに歩いて、西山峠付近のベンチのあるところでお昼にする。足下には、フデリンドウが咲いていた。お昼を食べていると、太い木の幹を登っていく大きなヘビをSさんが見つけた。男の子たちは、蛇が大好きらしく、みんなが写真を撮っていた。このヘビは、たぶん、アオダイショウではないかと思う。



シャガ

昼食後も子どもたちは元気いっぱい。ヤブサメの声と、「焼酎一杯グイー」というセンダイムシクイの声もこの春、はじめて聞いた。子どもたちが楽しみにしていた青い鳥のオオルリの声は、今回、風にかき消されたのかもしれないが、聞くことができなかった。

ベンチのある広い三沢峠で休憩し、今日、最後の山、草戸山に向かう。右下には、城山湖も見下ろせた。草戸山は、町田市最高峰らしい。展望台に上がり、遠くの都心方面の展望を楽しむ。



今回のコースは、ここからがアップダウンが多く、疲れが溜まってきた身体にこたえるところだ。大きなザックのI君は、かなり疲れた様子だったので、ザックを何度か他の子と交替して持ってもらった。しかし、子どもたちはまだまだ元気だ。O君は、無線機を使って、後にいるKさんと交信を体験してみた。O君やMちゃん

皇海山(5月10日)

参加者 会員(障害者2名、健常者7名)

沼田駅で全員降りたと思ったら、一人だけ見あたらない。もしかして、降り忘れてしまったの？ 本人うっかり、こちらは声かけ忘れ、お互いにしまったと思い、こちらから電話をかけ、上牧駅で降りてもらったが、そこにはタクシーがない。残念ながら、降り忘れた方にはあきらめてもらって、沼田駅に集まった9人でジャンボタクシーに乗り出発することにする。

尾瀬に向かう国道120号から別れ、悪路で有名な栗原川林道へと入っていく。谷側がスッパリと切れ落ちているが、ほとんどガードレールもない。高所恐怖症のAさんは、身の縮む思いだったようだ。しかし、運転するのは、プロのドライバー、対向車とのすれ違いも難くこなして、沼田駅から1時間半以上かけて皇海橋に到着。タクシーには、帰ってくるまで待ってもらって、歩き始める。

は、勉強してアマチュア無線の資格を取りたいと意欲を示していた。

何カ所かヤマツツジの咲くところを過ぎ、アップダウンを繰り返していると、ようやく左下に高尾山口にある町が見えてきた。高尾駅まで行く分岐を分けて、左手の道を下る。すぐに民家の脇に出て、舗装道路に飛び出した。

最初にハプニングがありましたが、子どもたちの「山は楽しいね」という言葉に、全てが報われた気持ちで、電車に乗り込んだ。

コースタイム

大垂水峠(9:55)...コンピラ山(10:35-10:50)...
西山峠付近(11:55-12:40)...三沢峠
(13:05-13:20)...草戸山(13:55-14:10)...高尾山
口駅(16:10)

足下には、あまり見慣れないスミレの仲間がたくさん咲いている。名前は分からないが、花弁の色が比較的濃いスミレだ。新芽が出て間もないカラマツの林を緩やかに登っていく。

二俣で休憩したいという意見もあったが、出発が遅く、帰る時間を考えると、頻繁な休憩は難しい。もう少し先まで頑張る。しかし、少し歩いたところで、Fさんがシャリバテのようなので、登山道の脇でお昼にする。



この道は不動沢に添って変化があり、楽しい道だ。何度か沢を右へ左へと渡り、少しずつ傾斜を増し、沢の上流へと登っていく。小さな滝

の上を通過するところは、落ちると大けがを
るので、慎重に登る。雪渓の残るところを通過



すると、沢から離れ、傾斜が一気に増してく
る。木の根っこや張られたロープに掴まって、
ぐいぐいと身体を持ち上げていく。急なだけあ
って一気に高度を稼ぐ。上の木々の間に青空が
見え始めてきた。傾斜が落ち始めると、不動沢
のコルに到着した。

不動沢のコルには、単独行の方が休憩してい
た。コルからは、鋸山が天を突く鋭角の峰を持
ち上げていた。



休憩時間も短めとして、山頂に向かう。この
稜線には、残雪がかなり残っていて、一箇所だ
け完全に凍ったところがあったが、軽アイゼン
を出すほどのこともなかった。途中、急なとこ
ろが一箇所あったが、それもクリアし、山頂へ
と向かう。ふり返ると、鋸山のギザギザの稜線
と、その右手に袈裟丸山がよく見える。さらに

右手奥に見える山は、赤木山ではないかと思わ
れた。

傾斜が落ちて、残雪の上をしばらく歩くと、
ようやく山頂に到着した。山頂からの展望はよ
くないが、木の間から奥日光の白根山が見え
た。15時までには着きたいと思った山頂に2
0分遅れで着いたため、長居することもでき
ず、早々に下山にかかる。

傾斜の急なところを慎重に下り、不動沢のコ
ルに16時20分に到着。明るいうちには下れ
そうだが、タクシーの運転手さんを長時間待た
せているので、休憩は短く切り上げて下山を急
ぐ。

不動沢に下りる急斜面は、登りと同じく、木
の根やロープに掴まって下りる。とにかく急角
度で、ぐんぐん下っていく。沢に下り立つとホ
ッとするが、もう一箇所、滝の上を通過して下
るまでは安心できない。何とか、そこもクリ
アして、沢に添って下っていく。中間地点で少
しだけ休憩するが、タクシーの運転手さんに早
めに様子を伝えたいと思い、SさんとYさんに
先に下りてもらう。

その後も、沢を何度か渡り返し、カラマツ林
の中を歩いて、最後の林道に出て、皇海橋に到
着した。18時5分だった。運転手さんにお詫
びをして、悪路を走っていただいた。

皇海山は、山頂から町の風景などが全く見え
ない山深いところに存在する。それでもかつて
と違って、皇海山の麓まで車で入れる楽なコー
スになった。それが良いのか悪いのか分からな
いが、これで一つ、百名山の登頂が増えた。

コースタイム

皇海橋(11:30)...二俣(12:05)...不動沢のコル
(13:55-14:05)...皇海山(15:20-15:35)...不動沢
のコル(16:20-16:30)...皇海橋(18:05)

六甲山は新型インフルエンザの危険があるため中止しました。また、倉岳山は雨のため中止
しました。

講習会報告

岩登り技術講習会(鷹取山)(4月12日)

参加者 会員(障害者3名、健常者5名)

今年も、春一番の岩登り技術講習会は、鷹取山で行った。桜は満開を過ぎ、葉桜となっていたが、朝方曇っていた天気も、昼頃には青空となり、ぽかぽか陽気の中で、岩登りを楽しんだ。

今回は、全盲のHさんが初体験だった。まずは、優しいルートを登ってみる。Fさん、Kさんも、鷹取山の砂岩は初体験だったので、岩の感触を確かめるように登っていた。

優しいルートを全員が登り、上に手摺りのある垂壁に行く。その前に、TさんとOさんが、昼の準備を始めていたので、そこにザックなどを置かせていただく。おいしい桜餅などをいただく。

垂壁は、いつもの右よりのところを登る。少し苦労したが、全員が登り切った。Fさんは、あまり登られていない、中央付近をトライし、しっかりとクリアした。普段から、フリークラ

イミングをしているだけに、バランスがずばらしい。



右寄りを全員登り終わってからお昼とする。TさんとOさんが、豚汁を持ってきてくださった。他にも、鶏の唐揚げやキュウリの漬け物もいただき、おいしいお昼になった。Kさんは、おにぎりが一個しかなかったので、しっかりと配給を受けていた。

午後は、垂壁の一番左側に挑戦する。Fさんと私が登り切ったが、KさんとHさんは、3歩目くらいのところをクリアすることが難しく、残念ながら、次回の課題とすることになった。

5月31日の岩登り技術講習会は、雨のため中止しました。

立教大学生のレポートから

「石老山」山登りレポート

12月7日、石老山の山登りに参加しました。今回は2回目ということで緊張することもなく、山仲間アルプに馴染んでいけました。電車を降りたところで前回も一緒だった参加者の方を見かけ、声をかけ一緒に行きました。普段障害者の方と接する機会はなく、もちろん自分から話しかけることもありません。目の見えない方に対するサポートの仕方も知らなかった

し、積極的に助けようとしたこともありませんでした。助けたくないわけではないけれど、実際にどうしたらいいのかわからないし、結局何もできないでいました。しかし山仲間アルプでの出会いでサポートの仕方を学び、これからは積極的に助けようという気持ちになりました。自分が思っていたよりも全然難しいことではないということに気づき、山仲間アルプではと

ても良い勉強ができたと思うし、これからの自分に大いに役立つ経験ができました。

今回は前回に比べ参加人数がとても多く、3班に分かれての登山となりました。清掃登山ということでゴミ袋を片手に登っていたのですが、山道にゴミは全然なくて、山を下りたところに少しある程度で、ほとんど自分たちの出したゴミを持って帰る感じになりました。山道は登ったり下ったり、急な道や狭い道も多々あり、容易には山頂に着きませんでした。何度か休憩をしながら山頂を目指しました。途中に展望台もあったりして、景色はすごく良かったです。天気が良かったので富士山を望むこともでき、都心を一望することもでき、最高の景色を楽しむことができました。

私は下りで弱視の方のサポートをしましたが、かなり急な道や狭い道もあり、足場が悪かったりして大変でした。自分一人でも大変なところも多々ありました。私は下りのサポート途中で上手く指示を出すことができなくて、サポ

ートしていた方を転ばせてしまいました。本当に申し訳なかったです。慎重にサポートしながら歩いていたらつもりでしたが、それでも失敗してしまいました。幸い怪我をすることはなかったので良かったのですが、本当に気をつけたいと思いました。急な下りは特に注意して、一歩ずつ確実に確認しながら進んでいかなければならないと改めて思い知らされました。

そんなこともありましたが、今回も参加者の方と楽しくお話をしながら山登りができました。サンタクロースやトナカイのかぶり物をしてのぼっている方もいて、よく目立っていたしとても可愛かったです。山頂ではサンタさんからお菓子のプレゼントも頂きました。やはり皆で楽しみながら登るのが一番だと思います。途中何度かきついところがありましたが、皆がいたので登りきることができました。また時間があればぜひ参加したいと思います。

R . B

石老山に登って

2008年12月7日、日曜日に山仲間アルプの方々と石老山に清掃登山に行きました。前期に一度登る予定だったのですが、雨天で中止となってしまったので今回が初めての登山でした。気温は低かったのですが、雲ひとつない青空の日で景色がよく見渡せました。

今回の登山には立教生が私を含めて11人と多く、サポートは学生が主体となって行ないました。3つの班に分かれ、私の班は二名の弱視の方と、会員の方、5人の立教生でした。立教生はUさん、S君、E君、Bさん、私です。下りが大変だということで、山に入ればばらくは女子が前のサポートをしました。私は最初、弱視のMさん(女性)のサポートをしました。Mさんはとても健脚で、見えている私でもふらついてしまうような道をすいすいと登っていき

ます。リュックに付けた紐を持って、私の動きで足場の高低差を把握し、ステッキでバランスを取り、体を支えていました。私は砂利道やぬかるみ、階段などの情報をできるだけわかりやすいように伝えていましたが、それが要らないんじゃないかと思うときがあったほどです。登山中はたくさん話しました。紅葉が青空によく映えていて、そこだけ夕日のように赤々と光っているところを見つけて写真を撮ったり、登山計画に載っていたように巨岩奇岩が多く、近くに立っている解説を読んだりなどしました。自然の美しさや壮大さを、私はあまり上手には伝えられませんでした。興味深く聞いてもらえて嬉しかったです。途中からは男子に前のサポートを任せました。今度は後ろから足場の状況を言ったり、大きな段差を登るときに支えたり

しました。山頂が近くなるにつれて急になり、少し弱音も吐きましたが、なんとか山頂までたどり着きました。

山頂から見る景色は言葉では言い表せません。遠くの山間から雪を被った富士山が見えました。手前の山は赤、黄、緑のグラデーションが鮮やかで、富士山との対比がはっきりしていました。みんなが口々にすごい、きれい、などと感想をいい、しばらく富士山のある風景を焼き付けていました。その後昼食をとり、記念撮影をして山を下りました。

下りの方が見えないと大変だと、Mさん(男性)は言っていました。そのため、ステッキを使って落差の見当をつけ、大きな段差は言ってもらっていました。Mさんもとても健脚です。低い段差などはジャンプして下りたりして私たちを驚かせたりしました。帰りは急な岩場やぬかるんでいるところが多く、両手を使って下りるためにステッキを後ろにいる人に預けて、

紐からも手を放して私たちの情報と経験を頼りに下りたりもしました。歩きやすい道を探ることが難しく、すぐ下だけでなく先も見なくてはいけないな、とこの時に思いました。

今回の登山では、初めてサポートをしてみても、なんとなくですが感じをつかめたと思います。天候にも恵まれていたので、きれいな景色を胸に焼き付けることができました。清掃登山にもかかわらず、登山マナーが行き届いてる石老山ではゴミはほとんど拾えずに、自分の昼食のゴミなどを袋に入れることになったのは、良いことなのですがちょっと気が抜けました。今回は、サポートする側なのにサポートしてもらった場面もあったので、次回はもっと頼りになるサポーターになれるように頑張りたいと思います。また、後半はほとんど男子と班のリーダーの方にサポートを任せてしまったので、もっと積極的にやりたいです。

S . F

石老山を登って

12月7日、ゼミのメンバーたちと一緒に石老山へ行ってきました。前回登った桜山の時は人数が10人くらいしかいなかったのですが、それに比べて今回の登山ではその3倍くらい多くの人数がそろいました。また、サポートが必要な方はそれぞれ1班、2班、3班に分かれたのですが、それぞれの班にだいたい2~3人くらいいたので、私たち立教生だけでなくアルプの方々もローテーションに加わってもらいました。今回は清掃登山と弱視の方々のサポートをやると聞いていたので、サポートしながらゴミ拾いはちょっとハードになりそうだなと思っていたのですが、ゴミはほとんど見当たらなかったため、サポートの方に集中することができました。今回サポートさせていただいた方は男性と女性の方それぞれ一人ずつで、どちらの方もユニークで面白い方々でした。しかし肝

心のサポートの方がなかなか上手く出来ず、さらにはコースもかなり険しかったので、前回の桜山とのギャップが激しかったです。前回はただ後ろについてもらっているだけだったのですが、今回は本格的にサポートする感じがしましたが、ランクがBということでしたが、ほかのBランクの山もこんなにきついものなのかと思うほど険しかったです。石老山はその名の通り岩石がたくさんあり、石や土が雨や雷などの自然現象で削れて道になっているところが多く、石の道も土の道も足が取られやすくサポートどころじゃありませんでした。私はちなみに4回転びそうになりました。とにかく段差が激しくて、行きも帰りも登って降りてを繰り返して、休み休み登ったものの頂上につくころにはみんな疲れた顔をしていました。そんな中頂上でも元気に遊んでいたのはふたりの11歳の女

の子で、彼女らは終始ずっと先頭を歩き休憩のときでもAさんと戯れていたりととても元気で驚きました。私たちがちょうどそのころだったとしてもあそこまで元気に登山することは出来ないと思います。しかし何よりすごいのはふたりとも親と同伴ではなく個人で参加しているということです。私が11歳のころ、ひとりで電車になんて乗れたのだろうか。そういった面でもたいしたものだと感心しました。あとその他のアルプの方々もみな私たちの親より年上くらいなのにもかかわらず、すいすいと歩いていく印象が強く、これもまた驚きました。今回石老山を登ってみて、改めて山登りのつら

さを感じたと同時に自然の偉大さを感じました。本来人が通らないような自然現象が作り出した道を歩いたとき、まるで人間が通るためにできているような場所がありました。それが私の単なる勘違いであったとしても、私は自然が私たちのために道を作ってくれた、そういうように信じていたいのです。私たちが疲れたときでも壮大な景色と鮮やかな紅葉などで癒してくれる。それもまた自然が与えてくれたものとして感じ、私たちはこの自然に敬意を抱いて日々の生活をしていこうと思いました。

R . E

12月21日弘法山に参加して

今回山登りに参加して久しぶりの山登りだったので、ちゃんと障害者の方の補助ができるか不安だったのですが最初経験者の方が指導してくださったので、自分がやらせて頂いた時話をしながら楽しくやることができました。今回は低めの山を4つ登ったのですが、下山が木の根などが地面から出て自然の階段になっていて普通に自分自身が降りるだけでこけそうになってしまって、迷惑をかけてしまいました。それを伝えるのも上手く言えなくて気をつけて早めに伝えて、より安全な下山にしたかったです。本当に目が見えていないのかと疑問に思うってしまうほどとても登山が上手で驚きました。いろんなことに対して挑戦をしているようで、いろんな会話を弾ませることができました。

私が今回の山登りで反省していることは周りの景色は富士山が見ることができたりしてとてもきれいだったのに上手く説明することができなくて言葉が足らなかったなと思っています。普段自分の見た素敵な景色などの写真を見せて説明したり、一緒に見て感動したり言葉だけで見たものを説明することがなかった

のでとても陳腐な言葉になってしまいました。まだ機会があるので次に改善できるようにしたいと思います。そして、朝の集合に電車の遅延で遅れてしまい申し訳なかったです。次は朝しっかり間に合うようにしたいです。

普段からチアで鍛えているつもりだったのですが、さすがに後半は疲れてしまいました。山登りっていつもと違う筋肉を使うものだなと思いました。それでも自分なりに笑顔でいようと気を使ったことはよかったかなと思いました。

今回のこの経験はとても貴重なものだと思います。山を登ること自体もなかなかできないし、視覚障害者の方を駅などで見ることはあっても会話をしたりするのはとてもよい経験をしたなと思いました。また年配の方も参加していらっしゃって私なんかよりずっと元気であんな風に年をとりたいたいと思いました。

頂上で食べたおしるこはとても美味しかったです。ありがとうございました。

次回は3月に登る予定です。

N . T

その他事業報告

定期総会(5月9日)

参加者 出席 21名
書面委任 48名
社員(正会員)総数(86名)の1/3
以上の出席があり、総会が成立

監査報告、2009年度事業計画及び予算、役員改選について審議が行われ、予算に関して、法人の安定運営ができるよう参加費収入や寄付などの見直しを理事会で検討することとし、議題については全て承認された。

2008年度事業報告、2008年度会計決算報告、

詳細は、総会議事録をご参照ください。

山仲間アルプの活動紹介映写会を開催しました(3月29日)

参加者 会員(障害者4名、健常者16名)
会員外(大人10名、子ども5名)

た方も2人いた。

放映した内容は、「共に楽しむ登山」が、生藤山、ドンデン山、涸沢、弘法山、鋸山、蝶ヶ岳(冬)「ふれあいハイキング」が、大福山・梅ヶ瀬溪谷、「自然と親しむ子ども山登り教室」が、雲取山、蝶ヶ岳、「リーダー養成コース」が、逆川、「岩登り技術講習会」が、日和田山でした。(逆川以外は、2008年度に実施したものの)

一歩くん基金の助成事業として、今年度、初めての試みとして、当法人の活動紹介映写会を実施した。

広報やちよ、八千代よみうり、やちよ市民活動センターなどを通じて広報を行い、会員以外(賛助員をのぞく)の方の参加は、8家族14人だった。過去にハイキングなどに参加した方が多かったが、今回初めて山仲間アルプを知っ

また、山仲間アルプの趣旨や事業内容などを、パワーポイントを使って説明し、最後にスライドショーとして、過去に撮りためた山や植物、野鳥、山を楽しむ会員などの写真を見ていただいた。

会員以外(賛助員は含まず)の方にアンケートをお願いし、その結果は、下記の通り。

1. 映写会の案内がある以前にNPO法人山仲間アルプをご存じでしたか？
 - a. 良く知っていた 4
 - b. 名前だけは知っていた 1
 - c. 全く知らなかった 2
2. お住まいはどちらですか？
 - a. 八千代市内 4
 - b. 佐倉市 1
 - c. その他千葉県内 2
 - d. その他の県 0
3. 今回の映写会があることを何で知りましたか？
 - a. 広報やちよ 3
 - b. 八千代よみうり(または佐倉よみうり、北総よみうり) 0

- c. 八千代市総合生涯学習プラザ内のチラシ 1
- d. やちよ市民活動センターのホームページ 0
- e. 知人(さん)からの紹介 2
- f. ホームページ 1 (重複回答)
- g. その他(千葉県ボランティアズカフェ) 1

4. 本日の映写会に参加されて、山仲間アルプの活動内容をご理解いただけましたでしょうか？

- a. 良く分かった 8 、 b. 何となく分かった 0 、
- c. 良く分からなかった 0

【理由】(自由記述)

- ・全部、行ってみたいくなりました。自然の美しさ、人間の力に改めて感動！
- ・映像がきれいでした。
- ・映像も美しく、花、人も生き生きしていました。
- ・どんな感じの山に登るのか、映像を見て良く分かった。ミニハイキングや、ふれあいハイキングなどいろんな活動をされていることが分かりました。
- ・時々ハイキングに参加させていただいています。楽しく一日を遊ばせていただき感謝しています。

5. 山仲間アルプの活動をどのようにお感じになりましたか？(自由記述)

- ・全体に温かい心を感じました。
- ・写真の感性にグッときました。写真集 or 絵はがき欲しいな。趣旨に賛同したいです。
- ・会の雰囲気がとてもいいと思います。娘も私も、参加できるのを楽しみにしています。
- ・是非次回は、出席山行にしたいです。
- ・みんなとても楽しんでいる様子が分かり、山の景色がすばらしかったです。沢登りも大変だと思っけれど、楽しそうでした。
- ・趣旨がすごかったです。

「千葉市民活動フェア in きぼーる」に出展しました(3月14日、15日)

参加者 会員(障害者2名、健常者6名)

今年も千葉市民活動センターまつりが行われ、山仲間アルプも写真などの展示で参加させていただいた。今回のまつりは、「千葉市民活動フェア in きぼーる」というネーミングで行われ、「千葉市をずーっと住み続けたいまちにするために」というテーマで行われた。

「千葉市をずーっと住み続けたい街にするた



2日目のスタッフのみなさん

めに私たちにできること それは・・・ です！」の の中に、山仲間アルプは、「心豊

かな社会づくりに貢献することです」と入れました。「心豊かな社会」というのは、究極の目標ですし、夢ですが、それを持ち続けることによって、「心の豊かさとは何か」、そして、そこに到達するためにどんな心を持ったらよいかを、どこまでもいつまでも考え続けられることに意味があると思っています。

結果を出すことではなくて、考え続けようとする過程こそ、大きな意味があると思います。結果は決して出せないのですが、謙虚な気持ち

第8回ミニハイキング(花見川)(3月1日)

参加者 会員(障害者3名、健常者10名)

会員外(健常者7名)

予報では曇りだったが、朝から雨のためどうしようか迷った。しかし、参加を取りやめるという電話もなかったため、予定どおり八千代台に行くことにする。行ってみると、雨にも負けず、全員集合となった。

バスに乗って、花見川団地中央公園で下車する。予定より早いバスに乗ったため、バス停に直接来るKさんを待って、出発する。

小雨のぱらつく天気だったが、風がないので、傘を差して歩ける。花島観音に着くと、菜の花がきれいに咲いていた。花見川の対岸に、早速、カワセミが姿を現してくれた。肉眼や双眼鏡では確認できたが、ヤブの中に入ってしまったようで、望遠鏡では見られなかった。

ここから予定にはなかったが、雨を避けて昼食を食べられるということで、花島公園の緑地事務所を目指して歩く。公園では、ホシハジロやコガモ、マガモが池に浮き、芝生の広場では、シメが見られた。

緑地事務所の中で昼食を食べ、もう一度、花

で努力すれば、一步進んで二歩下がることがあったとしても、どんなにスローペースだったとしても、誰でもが進んでいけるものだと思います。

今回も千葉市民活動センター及びフェアの実行委員のみなさまに深く感謝すると共に、山仲間アルプの展示に駆けつけてくださった会員のみなさま、どうもありがとうございました。また、山仲間アルプのブースを訪れていただいたみなさまに感謝いたします。

島観音に戻ってみんなで写真を撮る。それから、橋を渡って対岸を歩く。アオジが足下の藪で見え隠れする。木の枝先では、シジュウカラが飛び交い、キジバトは近くの草むらで何かを啄んでいた。



菜の花の咲く花見川にて

小雨の振る中を弁天橋方面に進んだが、時間がかかりそうなので引き返して、柏井橋に上がる。みんな階段から車道に上がったが、Yちゃんと私は、橋の下の急な斜面を上がって橋の袂に出た。

ここから橋を渡り、車道を通って、柏井市民の森に向かう。入口が判然とせず、細い小径を通って森に入った。ここでは、ルリビタキやアカゲラを見たことがあるので、注意して歩いたが、見ることはできなかった。それでも、自然の残るところを歩いて、車道に飛び出した。

花見川団地中央公園で少し遊び、バスで八千代台駅まで行って、解散とした。駅に着く頃、

日が差してきたが、その後も雨が降ったり不安定な天気でした。雨にも関わらず、多くの方に参加していただき、ありがとうございました。

コースタイム

花見川中央公園(10:55)...花島公園緑地事務所(11:45-12:30) ...花見川中央公園(14:25)

第19回ふれあいハイキング(愛宕山・犬吠埼)(3月28日)

参加者 会員(障害者4名、健常者9名)
会員外(障害者2名、健常者6名)

銚子駅から銚子電鉄に乗り換え、犬吠駅で下車する。改札をでると、濡れせんべいのおいしそうな匂いがみんなを誘う。帰りに買うことにして、ここは我慢する。

駅の外で自己紹介を済ませ、まずは満願寺に向かう。満願寺は、朱色や金色をたくさん使ったけばけばしいお寺だ。Mさんが言っていたが、このお寺はお坊さんが修行するようなお寺ではないだろうとのこと。確かに、修行するのに、派手な色は不似合いのように感じた。



地球の丸く見える丘展望台にて

ここから登り坂となり、愛宕山に向かう。愛宕山の頂には、地球が丸く見える丘展望台がある。入場料を払って展望台に上がる。周囲360度の展望があるが、その内の80%くらいが海だ。確かに水平線が丸いように見える。今日、向かう犬吠埼灯台が間近に見え、遠くには屏風岩が見え、風力発電の風車もたくさん見える。

ここでお昼を食べるのは寒いので、下のふれあい広場で食べようと思ったが、この展望台の2階の椅子を使って良いとのことだったので、ありがたくそこを使わせていただく。暖かくて、のんびりと昼食を食べることができた。

ここから車道を下り、まずは渡海(とかい)神社の極相林を見に行く。極相林とは、自然のままに放置することで、自然のままに樹木や下草が育ち、非常に安定した状態になることだそう。この極相林は、数百年、手を加えていないとのこと。高木としてタブノキやスダジイ、低木としてアオキ、シロダモ、草本としてトベラ、ヤツデなどが多いそうだ。

一つ利口になって、次の目的地、犬岩に向かう。民家の脇を通って、展望のよい草地にでる。犬岩を見るには、そこから右手に行って、ちょっとスリルのある高台から見下ろす。二つの耳を上げて、見ようによっては確かに犬に見えると思う。



長崎島の海岸にて

ここから次は、外川漁港の前の車道を歩いて、長崎鼻に向かう。長崎鼻では、浜辺に下りて岩の間に何かいないか探した。小さな巻き貝がいたが、何か採取している人に聞いたら、その巻き貝を採取しているとのこと。名前は知らないけど、食べることができるそうだ。

長崎鼻から、もう一度車道に戻って、長崎海水浴場を通る。本来は、車道に行く予定だったが、砂浜の方が近いという話があり、砂浜を行ったが、これは失敗だった。砂浜と車道はコンクリートの壁で仕切られていて、上がることができない。木の階段を上がれば出られると思ったが、そこは犬吠埼観光ホテルの中に入るもので、通り抜けはできないという。そこをなんとか頼み込んで、通らせていただく。今度機会があったら、ぜひ犬吠埼観光ホテルに泊まりたいと思う。

ホテルから少し行くと遊歩道となる。波打ち際を歩き、暗いトンネルを抜けて、階段を上が

ると犬吠埼灯台だ。ここで少々休憩して、予定の列車に間に合うように早足で歩き、何とか間に合った。犬吠埼は、「秋刀魚の歌」や「海辺の恋」で有名な佐藤春夫の「犬吠埼旅情のうた」の歌碑や高浜虚子の句碑などがあり、文学散歩も楽しめるところだ。

機会があったら、また来てみたいと思い、銚子電鉄の電車に乗り込んだ。

コースタイム

犬吠駅(11:05)...愛宕山(11:30-12:30)...犬岩(13:05-13:20)...犬吠埼灯台(14:40-15:00)...犬吠駅(15:15)

第9回ミニハイキング(新川下流八福神めぐり)(4月4日)

参加者 会員(障害者1名、健常者6名)
会員外(健常者1名)

勝田台駅改札前に集合して、米本団地行きのバスに乗り、米本神社前で下車する。ここで、Tさんと合流し、自己紹介を行う。今回は、Kさんが初参加だ。友愛みどり園のみなさんは、今日が入園式と重なったため、参加者は不在だった。

舗装された道を歩いて、まずは弁財天のある長福寺に向かう。路傍に今年初めてのタチツボスミレを見つけた。周囲のソメイヨシノは、五分咲きくらいだろうか？

弁財天は、天災地変を除滅する神らしい。農耕の神としても祭られるそう。ここで、朱印を押させていただき、次は新川に向かう。新川への道は、舗装されていない農道のため、路傍にはヒメオドリコソウやオオイヌノフグリ、ホトケノザなどがたくさん咲いている。空ではヒバリが歌い、気温も温かく、春爛漫の陽気だ。新川に出ると、千本桜が咲いている。この桜は、陽光桜というらしく、ちょうど満開だった。ま

だ植えられて7年くらいのため、木は小さくが弱そうだが、花はきれいな濃いピンク色で目立つ。

ゆったりと流れる新川の畔は、いろんな花が咲いていて、気持ちがいい。梨畑では、モズが網の縁に止まって楽しませてくれた。宮内橋を渡り、右岸を歩く。途中から右手の農道を歩き、次の萱田の長福寺に向かう。ここには、長寿の神、寿老人がある。しかし、誰も長寿は願わなかったようだ。



来た道を引き返し、新川沿いを歩いて、野球場の脇でお昼にする。ここは、桜見物のグループが多く、出店もいくつかあった。50分ほどゆっくりしてから、集合写真を撮り、村上橋を渡って、今日最後の八福神、毘沙門天のある正

覚寺に向かう。毘沙門天は、護国護法の神、福德財富の神らしい。富みに恵まれることがあるのでしょうか？

ここを出て、八千代市の郷土博物館に立ち寄る。村上にあった遺跡の発掘方法の紹介や見られた野鳥や動物の剥製、そして昔の生活の様子が分かる古いテレビやちゃぶ台、黄粉を作る石などが展示されていた。ここでゆっくり休んでから村上駅に向かった。予定時間より5分早く村上駅に着き、ここで解散とした。しかし、ま

第20回ふれあいハイキング(六国峠)(4月11日)

参加者 会員(障害者4名、健常者9名)

会員外(障害者2名、健常者6名)

今日は、雲一つない快晴に恵まれた。直前の変更があったが、総勢24人で金沢文庫駅を出発する。

住宅街の上に見える里山は、木々の芽吹きが始まって、ほんわかとした暖かな雰囲気漂っている。コンクリートの道から山道に入ると、木々の芽吹きと共に、桜の花や、カントウタンポポなど、足下の草花が楽しませてくれる。ウラシマソウやタチツボスミレもたくさん咲いている。

能見台を過ぎ、横浜横須賀道路の脇を歩いて少し歩くと、金沢動物園の入口に着く。ここで、トイレ休憩を取り、横浜横須賀道路の下を歩いて、ひょうたん池に着く。この池を右手に見て進もうとしたが、この道は現在、危険な状態にあるということなので、近くにいた方に聞き、池の右側の道を登って尾根に出た。尾根上の道をしばらく歩くと、大丸山山頂に向かう階段があった。大丸山は、横浜市最高峰らしい。標高

だ歩き足りない感じの人もいたので、歩いて勝田台駅に向かう人が多かった。

春の温かい陽気の中で、桜や草花を楽しめた一日でした。

コースタイム

米本神社前(10:30)...長福寺...宮内橋...野球場(12:10-13:00)...郷土博物館(13:30-14:10)...村上駅(14:25)

は、156.8m。

東京湾方面が見え、なかなか展望がよい。ここで、昼食とする。食後にみんなで写真を撮り、出発する。



市境広場で休憩し、天園に向かう。右手には、広大な鎌倉霊園が広がる。いつまで歩いても続いている霊園の広さに、みんな驚く。天園で、ジュースなどを買って休憩する。ここで今日の行程の3分の2位だろうか？ 今日のグレードはB位だという話が持ち上がる。確かにハイキングとしては、距離が長く、体力を要する。すでに2万歩歩いたという人もいた。

ここからゴルフ場の脇を歩いて登り着いたところが、大平山で、ここは鎌倉市の最高峰らしい。この付近から、時折岩場も出てくる。海岸に近いこともあり、この付近の岩は砂岩だ。

建長寺を見下ろす展望台に着き、ここからは明月院側を下る予定だったが、建長寺も拝観料

を取られないということだったので、建長寺に下ることにした。急な石段をしばらく下り、お寺の一角に下りる。建長寺は、非常に広く大きなお寺だ。

ここからは、車道を北鎌倉の駅まで歩く。北鎌倉駅で解散し、予定より一本遅れの電車に乗り、帰宅の途についた。

第10回ミニハイキング(神崎川八福神めぐり)(5月16日)

参加者 会員(障害者2名、健常者8名)
会員外(障害者1名、健常者2名)

今回は、八千代八福神のうち、大黒天の妙徳寺と吉祥天の妙光寺を訪ね、神崎川沿いを歩き、時間に余裕があったため、神崎橋からさらに八千代ふるさとステーションまで歩いた。

どんよりとした曇り空だったが、暑くもなく寒くもなく、歩くにはほどよい気温だった。秀明大学のバス停から舗装道路を歩き、まずは大黒天を祭る妙徳寺へ、さらに近くの妙光寺を訪れる。

ここから農道を歩いて、神崎川に出る。農道に出ると、一面に水田が広がる。八千代市に住んでいても、こんな機会がなければ、出会うことのない風景だという声が聞こえる。農道の脇には、クワガタソウのような花がきれいに咲き、シロツメクサなどと共に楽しませてくれる。

ヒバリの囀る声やオオヨシキリの元気な声を聞きながら、神崎川の畔に出る。今回が初めて参加の4歳のMちゃんは、舗装されていない道路が初めてで怖かったのか、おなかが空いたからなのか、盛んに泣いていた。でも、今回は、最後まで歩き通した。

よい場所がなかったが、神崎川の畔で昼食に

コースタイム

金沢文庫駅(9:25)...配水池(10:40-10:50)...金沢動物園(11:10-11:20)...大丸山(12:30-13:10)...天園(14:10-14:25)...北鎌倉駅(16:20)

する。Mちゃんは、すっかり泣きやみ、昼食後は元気に笑顔で歩いていた。きっとおなかが空いていたのだろう。



田んぼの畦にいるキジを見たり、ヒッヒッヒッと上昇し、チャッチャッチャッと下降するセッカを何度も見たりしながら神崎橋に到着。ここで、車で帰るOさんやSさんと別れ、八千代ふるさとステーションに向かう。神崎川から新川の畔を歩き、オオヨシキリの声を聞きながら八千代ふるさとステーションに到着する。ここからさらに村上駅まで歩くYさんと別れ、買い物などをして休憩し、米本団地のバス停に向かった。

コースタイム

秀明大学(10:25)...妙徳寺(10:35-10:45)...妙光寺(10:55-11:00)...神崎川の畔(11:30-12:20)...八千代ふるさとステーション(14:00)

市原市民の森ふれあいハイキングは、雨のため中止しました。

個人山行報告

立山(5月3日~5日)

参加者 会員(障害者1名、健常者2名)

5月3日

夜行高速バスで、富山まで来て、富山から地鉄などを乗り継いで、室堂に入るのだが、立山駅では、ケーブルに乗るまで3時間以上の待ち時間になるという。立山駅から室堂までの直行バスもあるそうだが、こちら切符を買うのに1時間以上かかり、買ってからさらに1時間は待つことになるという。少しでも早く室堂に行きたかったので、直通バスに乗ることにして、切符を買う列に並ぶ。かなり前に来て、あと10数分で切符を買えそうな頃、補助椅子で良ければ、すぐ10分後くらいのバスに乗れるということだったので、補助椅子に乗ることにして、9時10分発のバスに乗ることができた。

雪の大谷などの車窓を楽しみながら、室堂に到着し、Yさんと合流する。予定より40分遅れで、室堂を出発する。Yさんは、昨日、一服剣まで生き、剣沢のキャンプ場に泊まったそうだ。剣沢から、快晴の下で、剣岳を眺め続けていたとのこと。今日からは、快晴の空は望めそうもないので、うらやましい限りだった。

みくりが池近くで、ライチョウの雄雌を発見。早速、写真を撮らせてもらう。

雷鳥沢のキャンプ場は、トイレもあり、水もあって、ありがたい。受付を済ませ、テントを設営し、奥大日岳に向かう。設営をスムーズにこなしたことで、出発はほぼ当初の予定時間どおりとなった。

雪の斜面を登って新室堂乗越に出る。剣岳が頭だけ、わずかに見えていた。空は高曇りだが雨の心配はなさそうだ。大きな雪庇がたくさん張り出した奥大日岳に向かって、2回ほど大きなアップダウンを繰り返して、登っていく。Kさ

んは、足が痛いそうでペースが上がらない。それでも、最後の登りを頑張って、奥大日岳の山頂稜線に15時5分に到着した。実際のピークはもう少し先だが、時間的なこともあり、奥大日岳最高点の少し手前で引き返す。下りは、ロープを結び合っていくことにする。Kさんに、痛み止めの薬を飲んでもらったので、痛みも治まったようで、良いペースで歩けるようになった。



奥大日岳にて(後は立山)

こちらからの剣岳は、完全な三角錐に見える。立山三山や室堂平、そしてその向こうに薬師岳と高曇りの下ではあるが、大展望を楽しみながら下る。途中、シリセードなども織り交ぜ、雷鳥沢に17時に到着した。

5月4日

今日が、今回の登山のメインルート、立山三山の縦走だ。空は相変わらず、高曇り。視界は良好なので、テントを設営したまま、5時10分に出発する。バスターミナルに向かわず、真っ直ぐ一ノ越に向かう。Yさんのハイペースについていけず遅れたが、沢通しに行くYさんとKさんから離れ、斜面をそのままトラバースし、真っ直ぐ一ノ越に向かったため、途中で抜いてしまった。二人の登ってくる後に、昨日登った奥大日岳などがよく見える。

一ノ越に到着すると、後立山方面の展望が開ける。尖った頂が何か、最初は確信が持てな

ったが、その右に高い山が続いていることから、槍ヶ岳と確信した。

雄山への登りは、所々夏道が出ている。しかし、所々凍っているので、アイゼンが威力を發揮した。一ノ越方面をふり返ると、ライチョウが岩の陰から出てきた。一ノ越から途中休憩することもなく、1時間15分ほどで雄山に到着した。針ノ木岳から唐松岳までの後立山の展望が広がる。槍ヶ岳も見え、視界は良好。

ここからトラバースが始まるので、雄山神社に参拝した後、ザイルを繋ぎあって、大汝山に向かう。トラバースもすぐに終わり、あとは危険なところもなく、稜線通しの道となる。東側に張り出した雪庇に注意しながら、踏み後をたどる。立山三山の最高峰、大汝山に8時45分に到着。これから向かう真砂岳の上に、剣岳が姿を見せていた。

大汝山から真砂岳にかけては、何羽もライチョウを見つけた。東側の谷間には、黒部湖が見え、その上に聳える尖った針ノ木岳とたおやかな蓮華岳が対照的なたたずまいを見せている。



14羽も見つたライチョウ

富士ノ折立は登らず、夏道どおりに西側を巻き気味に下っていく。内蔵ノ助カールに向かって滑ろうとしている山スキーヤーもいた。こちらはシリセードなどを交えながら下り、さらに真砂岳に向けて登りかえす。ふり返ると内蔵ノ助山荘が間近に見え、歩いてきた立山三山もよく見えた。

真砂岳を通過し、次第に近づく剣岳を眺めながら、真砂乗越に向けて下る。そして最後のピーク、別山に向けて、途中、ライチョウと戯れ

ながら登る。

別山は北峰の方が剣岳の展望がよいということなので、北峰までいってお昼を食べることにする。単独行の人が休んでいたが、静かな北峰で、展望を恣にしながら、もういいというくらいお汁粉を食べた。右にハツ峰と源治郎尾根を従え、手前には別山尾根を伸ばす、岩と雪の殿堂、剣岳の雄姿は何時間見ても飽きない。足下には剣沢の小屋やテントも見える。さらに白馬岳から続く後立山連峰と大天井岳までの山々を見わたすことができた。

今日の予定は、剣御前小屋まで行って、そこから雷鳥沢に下る予定だったが、時間がたつぱりであるため、剣御前まで行ってみることにする。剣御前小屋から雪の斜面を登って、何度かアップダウンを繰り返す。この稜線には、ライチョウがたくさんいた。剣御前に行くまでに5羽、剣御前の山頂でも1羽見たので、これで昨日から14羽のライチョウを確認したことになる。剣御前からの帰りにも3羽ほど見たが、これは同じ個体だと思うので、数には入れていない。



剣御前にて(後が剣岳)

剣御前からの剣岳は、今回、最も近い位置から見ているので、さすがにすばらしい。青空の下で、日を受けて陰影のある姿ならもっとすばらしいのだが、はっきりと望めているので、これで良しとしよう。

山頂にいた話し好きのおじさんと別れ、剣御前小屋に戻る。剣御前小屋でアイゼンを外し、これから始まるシリセードに備える。歩いて下

る人たちは、雷鳥沢の西側の尾根を下っていたようだが、私たちはスキーヤーと同じ雷鳥沢そのものをシリセードで快適に滑り降りた。歩いて下りたら1時間以上かかるところを、何と25分で下りてしまった。ただ、尻はびしょびしょ。シリセードに備えて、古いオーバースポーンを持ってきて正解だった。

雷鳥沢のテントに戻り、夕食づくりを行う。Yさんは温泉に入りに行ったので、Kさんと私は、先に乾杯する。寒くなったのでテントに入り、夕食を食べ、しばらくすると、夕焼けが見られるというので、外に出て写真を撮る。もしかしたら明日は天気がよいかもしいないと思っていたが、翌朝は、その通りに快晴で明けた。

5月5日

今日は、元気があまっていて、天気が良ければ、別山乗越まで上がって、モルゲンロートの剣岳を見ようと思ったが、目の覚めた3時頃、ぜひ行こうという声が強かったので、止めてもう少し寝ることにする。空には、満天の星空が広がっていた。



5時前に起きて、朝食を食べ、テントを撤収する。雲一つないすばらしい天気だ。重くなったザックを背負って、テント場から登りはじめ

各種連絡事項

山仲間アルプ写真展が開催されました（練馬区ビーンズアクトにて）

パルシステムの運営するセカンドリーグ支 援室の方から、その方の住む近隣の多くの方に、

る。真っ白な大日岳が、朝日を受けて印象的だった。ハイマツの上では、カヤクグリが囁いている。気持ちよい朝だ。

みくりが池温泉で温泉に浸かろうと思ったが、9時からでないとい入れないということなので、あきらめてバスターミナルに向かう。この頃には、すでに立山は雲に包まれていた。天気の変化が非常に早いようだ。

午前中で時間が早いこともあり、トロリーバスは待ち時間なく乗れるという。富山から兵庫に帰るYさんと室堂で分かれて、Kさんと二人でトロリーバスに乗り込む。トロリーバスからロープウェイ、ケーブルカー、またトロリーバスと乗り継いで、扇沢に着いた。山々は、もう完全に雲の中。今朝の好天は、一瞬の間の疑似好天だったのだろう。

雪の世界から桜の咲く里の世界に下り、田植えの終わった水田ののどかな風景に、ふるさとのことなどを思い出しながら、現実の世界へと戻ってきた。

コースタイム

5/3 室堂(10:40) ... 雷鳥沢キャンプ場(11:30-12:35) ... 新室堂乗越(13:05-13:20) ... 奥大日岳直下(15:05-15:15)...雷鳥沢(17:00)

5/4 雷鳥沢(5:10)...一ノ越(6:20-6:35)...雄山(7:50-8:10)...大汝山(8:45-8:55)...真砂岳(9:45-9:55)...別山北峰(11:15-12:05) ... 剣御前小屋(12:40-12:50) ... 剣御前(13:25-13:50) ... 剣御前小屋(14:10-14:25)...雷鳥沢(14:50)

5/5 雷鳥沢(7:00頃)...室堂(8:10頃)

山仲間アルプの活動を知って欲しいとお話しをいただき、5月14日から31日まで、西武池袋線練馬駅北口から徒歩5分のところにある「ビンスアクト」で写真展を開催していただきました。

主催して下さったNさんが作成した写真パネルを多数展示していただきました。

支援して下さる方のお気持ちをありがたく受け止め、これまで以上に活動を通じて、社会貢献に繋げていきたいと思っております。

NHK - FMラジオ「まるごと千葉60分」出演予定

6月3日(水)18時から19時まで、千葉県内で放送される「まるごと千葉60分」に出演依頼をいただき、理事長が出演する予定です。今回、依頼をいただいたキャスターの方は、昨年度まで山口県で仕事をされていて、その際、

山口ささゆり会が主催した「視覚障害者全国交流登山大会」の取材をし、千葉県で同様の活動をしている団体があることを知って、今回の番組で取り上げることになったそうです。

(財)日本環境財団の学習会に出席予定

(財)日本環境財団の方から財団の学習会で、山の環境などについて講師として話をして欲しいとの依頼をいただき、理事長が出席することになりました。山の環境そのものは、科学的に分析している専門家にはかないませんので、

山の自然からどんなことを学ぶことができるのか、主に、人の心の側面にスポットを当てて、話をさせていただきたいと思っています。6月24日に実施予定です。

会員情報

新入会員のお知らせ

3月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願ひします。(敬称略)また、2名の方が正会員から賛助会員に変更し、3名の方が新たに賛助員になってくださりました。

正会員

A.A. 東京都八王子市
H.E. 千葉県八千代市
S.T. 東京都日野市

未成年会員

K.T. 千葉県八千代市
M.Y. 千葉県船橋市
K.Y. 千葉県船橋市
K.I. 千葉県八千代市
K.K. 千葉県佐倉市
K.E. 千葉県八千代市
T.O. 千葉県八千代市

編集後記

・理事長のつぶやき

機関誌「風のささやき」が25号となりました。この機関誌の名前に寄せる思いを今回は書いてみたいと思います。

展望や花の美しさなどは視覚障害者の人には見えません。野鳥たちの歌声や川のせせらぎなどは聴覚障害者の人たちには聞こえません。

しかし、「風」は目でも耳でもなく、肌で感じるものです。ですから、ほとんど誰でも感じることができます。

また、「風」を単なる物理的なものとして捉えてもよいのですが、何も語らない「風」から

何かを聴き取りたいという思いも込めています。

汗ばんだ身体に、さわやかな風はとても気持ちよいものです。だけど「風」は、お礼など求めず、ただ吹き抜けていくだけです。

でも、「風」は私たちに何かを無言のうちに語りかけてくれているのではないかと思います。そんな「風」の声なきささやきに心の耳を傾ける心を持ちたいと思い、ネーミングを考えてみました。

・次回発行予定は、9月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても

